

令和6年度絆力を活かした震災復興支援事業補助金交付決定事業一覧

No.	団体名	事業名	事業概要	補助金額
1	特定非営利活動法人 移動支援Rera	誰もが暮らしていけるまちのための、助け合い移動支援事業	<p>○送迎活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害や高齢、心身の不調、孤立、経済困窮等により、命と生活に必須な移動手段を持たない住民を対象とした、住民互助のボランティア送迎活動を行う。 ・「制度を利用した送迎」「制度からこぼれ落ちた移動困難者の送迎」の二本立て送迎システムを確立させる。 <p>○外出できない住民が心豊かに暮らすための「付き添いつきお出かけ送迎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出が通院や買い物等、生活に必要な移動に限られている住民に対し、余暇を楽しむ、人と交流などを目的に、お出かけの機会を提供するイベントを毎月実施する。 <p>○地域の移動の担い手発掘・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい運営体系に沿って、社会貢献の参画機会として訴求し、広く呼びかけを行う。 ・安心安全な送迎技術を身につけるための勉強会や実習を積極的に開催する。 	6,854千円
2	一般社団法人 プレーワーカーズ	子ども支援団体・機関の絆力を強化し、“ONE TEAM”で県全域の子どもを元気にする取組	<p>○避難してきた子どもと親子の心のケアを目的とした拠点運営</p> <p>津波により沿岸部から避難してきた子ども・親子を含めた地域住民対象の遊び場・居場所づくり。一軒家の庭を開放して、子どもも保護者も自由にのんびり過ごす場を提供する。</p> <p>○子どもと親子のコミュニティ再構築を目指す外遊び（新規事業）</p> <p>名取市の中心的な公園（十三塚公園）にて、屋外の遊び場づくりを行う。定期的な外遊びの機会を作ることで子ども同士、親子同士の繋がりを再構築していく。</p> <p>○遊び場・居場所づくりの伴走支援</p> <p>遊び場や居場所を作りたいと考えている人がいる地域へ出向き、相談～開催支援までを行う。</p> <p>○外遊びを通じて子どもと関わるプレーワーカー養成講座（新規事業）</p> <p>プレーパーク等で外遊びを通じて子どもと関わる活動を始めたい、知識を深めたい人向けに養成講座を実施する。</p> <p>○「絆力を育む地域コミュニティづくり」シンポジウムの開催</p> <p>子ども、子育て支援団体及び市民向けの公開シンポジウムを開催する。</p>	6,178千円
3	一般社団法人 ReRoots	被災地域の農家・住民と作る「農村塾」	<p>○新規就農者の育成と地域の魅力を伝える販路形成</p> <p>担い手育成政策として、地域に魅力を感じてもらい、就農・定着するための研究を行う。就農希望者の関心や悩み、不安などを調査し結びつき、地域として受け皿を作る事を構想している。</p> <p>○地域文化としてのしめ縄の継承と生きがいつくり</p> <p>学生、地域住民、若手農家の連携を密にして生きがいつくり、繋がりがつくり、文化継承を進め、さらに、住民の方に講師が講師となり地域内外の人にわら文化を体験してもらおう「わらワークショップ」を開催し、地域文化の発信にも力を入れていく。</p> <p>○市民農園やおいもプロジェクトによる地域内外の往来づくり・コミュニティづくり</p> <p>地域の遊休地を住民の方からお借りし、市民農園として区画を都市部の利用者に貸し出し、野菜の生育管理を通して都市部からの定期的な人の往来と、地域住民との交流を促進する。</p>	1,921千円
4	特定非営利活動法人 Switch	高校内居場所カフェを起点とした“繋がりが続ける”若者支援拡大のためのノウハウ移転事業	<p>○高校内居場所カフェ「NOTECafé」事業</p> <p>生徒への個別対応や学生同士での接点を創出するプログラムを用いたカフェなどで、それぞれの学校の重点目標に合わせた高校内居場所カフェを開催することで、支援の必要な生徒がより敷居を感じず利用できるカフェを実施する。と同時に、中卒進路未決定や中退等による所属のない若者も包括的にサポートできる切れ目のない支援に取り組むことで、学校から切り離された若者の孤立孤独防止に対応していく。</p> <p>○NOTECafé未導入高校に対するお試しNOTECaféの提案・実施</p> <p>○「若者支援中長期ビジョン検討会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業に関わるスタッフと外部のファシリテーターを入れ、震災から13年経過した、高校内居場所カフェ事業を中心とした、広く若者支援の在り方を検討する会議を実施。 	3,485千円
5	一般社団法人 石巻じちれん	多様な主体と協働し取り組む、集団移転地の交流促進事業	<p>○心のケアを行う団体と連携した、サロンを開催</p> <p>住民同士での交流を軸に場をつくり、サロンに訪れた住民が生活相談や、心の相談を行える体制を構築する。</p> <p>○心のケアを行う団体と連携した「ハンドアロマサロン」の開催</p> <p>講師を迎え、ハンドマッサージを覚えながら交流を行う。</p> <p>○健康づくり・身体や認知機能を目的とした、健康サロンを開催</p> <p>踏み台昇降や機能維持トレーニングを行いながら、交流を行うサロンを開催する。また、朝のラジオ体操を実施し、外出や運動の習慣化を図る。</p> <p>○自治会同士の連携と協働事業を実施する組織の設立と運営のサポート</p> <p>担い手不足解消や、行事等の協働運営を行うために「町内会連絡会」を組織し、行事などを協働することで、地区内コミュニティの活性化に寄与する。</p> <p>○集団移転地に関わる支援団体の協働の推進</p> <p>多くの主体が、分野の違いを超えて会議に参加し、それぞれの取り組みや地域課題を共有し、取り組みや制度を学びあうことで、被災者支援の質の向上を図る。</p> <p>○災害公営住宅入居者への相談会と団地会役員の情報共有会の開催</p> <p>災害公営住宅入居者からの生活相談や団地会役員からの運営に関する相談などを開催、福祉セクションへのつなぎや他の団地の事例提供、運営指南などにより、災害公営住宅入居者に暮らしの安心を提供する。</p>	2,395千円

6	特定非営利活動法人 応援のしっぽ	働きたい女性と地域社会とのつながりを作る、コミュニティ形成支援及び仕事創出事業	<p>○製作者コミュニティの形成支援 募集から登録、技術審査や講習会を経て、登録メンバーネットワークを作り、互助的なコミュニティにつなげていく。</p> <p>○製作者コミュニティの技術講習会開催などによる技術レベルアップ 製品化できる一定の技術レベルを担保するために、仕事に応じて技術講習会を開催する。</p> <p>○仕事創出と受注体制及び販売サイトの改善 コープ共済連のキャラクターノベルティの制作など、これまでの支援ネットワークをもとに、仕事を創出していく。</p> <p>○復興公営住宅ワークショップ開催による自治会コミュニティ形成支援 製作者コミュニティから講師を派遣し、復興公営住宅でミシンや手作り小物などのワークショップを開催する。引きこもっている住民や地域コミュニティのコアになりうる住民の参加を促し、孤立化を防止できるようなコミュニティ形成支援を行っていく。</p> <p>○外部支援組織との交流によるコミュニティ活性化と継続化 外部支援組織との交流を図り、現在の状況と必要な支援について発信していく。</p>	1,742千円
7	特定非営利活動法人 サクラハウス	小学生の時に被災した子どもたちと現在被災地で暮らす子どもたちとの交流によって生まれる絆づくりのための放課後事業	<p>東松島市の東名・野蒜地域では震災によって子ども会の規模が縮小し、地域の集まりや催事が無くなっていて、世代間交流の機会が激減している。また、高台に新しい町が建てられたが町内会は機能せず、新しいコミュニティの形成は容易ではないとの声がよく聞かれる。この放課後事業によって若者たちも子どもたちもお互いを知り、地域の復興に繋がる機会を創出する。</p> <p>○放課後クラブ ○アフタースクール ○塾（自習室） ○サクラカフェ</p>	1,612千円
8	特定非営利活動法人 時のひかり	東松島市地域共生と地域資源活用による震災復興協働プログラム	<p>東松島市は、障害者スポーツの振興と地域活性化を目指し、日本ろう者サッカー協会との間で連携協定を締結した。障害者サッカーを中心としたスポーツイベントは、地域住民の絆を深め、地域全体の活力を高めるための具体的な取り組みとして展開され始めている。中間支援団体として当法人がこの取り組みを繋いでいく。野蒜復興フェス内にて以下を実施する。</p> <p>・トークセッション「(仮)障害サッカーがもたらす地域社会への貢献と可能性」 ・インクルーシブサッカー・ビーチスポーツ体験</p>	1,309千円
9	一般社団法人スタンドアップ亘理	持続可能な共生社会と地域福祉創造事業	<p>○こころのケア 個別相談の実施および、短期的視点・中長期的視点を踏まえて、必要に応じて学校や職場、本人が暮らす地域の関係者等と連携を図りながら、行政や医療機関、NPOや民間企業へのつなぎ手として具体的な問題解決に取り組む</p> <p>○こどもたちの放課後居場所づくり 大人もこどもも気軽に集まって遊んだり教え合ったりできる拠り所をつくり、個別の関りから複数での人間関係を導き、自他に対する不信感の軽減と信頼回復を図る。</p> <p>○フードドライブ、制服回収ボックスの設置 家庭で眠っている不要食品や着なくなった学校の制服などを回収し、社会福祉協議会や行政と連携しながら、支援を必要とする人に提供する。 ファミリーサポートセンターや障がい者福祉施設と連携し、回収した制服の補修などを通して就労等自立支援に取組み、雇用と働き口の確保を図る。</p>	964千円